News Letter
大阪大学全学教育推進機構
ニュースレター
2024.3.10 ◆ Vol.12
大阪大学 OSAKA UNIVERSITY
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences
発行：大阪大学全学教育推進機構広報委員会
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16

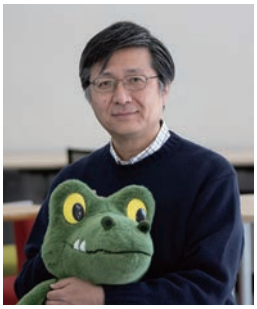
2024年度開始！

大阪大学
OU-SDGs
プログラム

特設サイト URL　https://ou-sdgs.celas.osaka-u.ac.jp/

大阪大学は「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和への貢献、「生きがいを育む社会」の創造を目指しています。

持続可能な開発目標（SDGs）は、「誰一人取り残さない」を理念に、私たち一人ひとりが持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標であり、この理念と、大阪大学が掲げる「生きがいを育む社会」の創造には共通するものがあります。



このような背景のもと、SDGs についての学びを深めることで、自発的・積極的に社会課題に取り組み、持続可能な未来社会の実現に貢献できる人材を育むことを目的として、全学教育推進機構は「OU-SDGs プログラム」を立ち上げることとしました。

このプログラムは、複雑化する社会課題の解決に貢献し、「いのちを大切にし、一人ひとりが輝く未来社会」の実現に資する人材を育成する学部教育プログラムです。学部初年次段階から履修できる SDGs 関連科目群を設定し、この中から所定の単位数を修得した学生に対して修了認定証を授与します。詳しくは、特設ウェブサイトをご覧ください。

全学教育推進機構　機構長　進藤修一

生成AI教育ガイド

大阪大学 全学教育推進機構
教育学習支援部
Department of Teaching & Learning Support

URL: https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/generative_ai/

チャットボット形式で簡単に文章を生成できる「ChatGPT」は、2022 年 11 月末の OpenAI 社による公開以来、その革新的な性能の高さから大きな注目を集めています。大阪大学でも、総長から学生に向けて「生成 AI（Generative AI）の利用について」という声明が発表され、その中では「ChatGPT」等の生成 AI の問題点に留意しながら適切に活用することや、学習のプロセスを重視することなどが示されています。

このような背景から、教育学習支援部では、生成 AI の教育利用に期待や不安を抱かれている教員のみなさまに向け、「生成 AI 教育ガイド」を教育学習支援部のホームページにて公開しました。まず本ガイドでは、生成 AI を初めて使用される方々に役立つよう、基本知識から利用する際の注意点までを、整理して紹介しています。また、教育評価において生成 AI は大きな影響を及ぼすと考えられることから、不適切な利用を防ぐための対策や評価方法を提案しています。一方で、生成 AI をうまく活用することで、授業の質の向上や、業務負担の軽減が期待できます。当ガイドでは、グループワークの設計やレポートの評価といったプロンプトの記入例を掲載しておりますので、ぜひご参照ください。

令和５(2023)年度 着任教員紹介

教育学習支援部　浦田悠准教授

2023 年８月に着任いたしました、教育学習支援部の浦田悠です。2022 年からスチューデント・ライフサイクルサポート (SLiCS) センターにおりましたが、その前は長らく教育学習支援部の特任教員でしたので、また全学教育推進機構に戻ってくることができ、嬉しく思っております。バックグラウンドは心理学で、人生の意味や生きがい、仕事の意味について関心を持ってきました。業務では ICT 活用教育の支援等にも携わっています。今後も学生や教職員の方々の人生の意味や仕事の意味に貢献できるような支援をしていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

研究にまつわるクイズ

青年期に比べて、高年期では「人生の意味」を感じる度合いは
高いでしょうか？低いでしょうか？

クイズの答えはウェブサイトへ

教育学習支援部　長岡徹郎助教

2023 年４月より全学教育推進機構教育学習支援部に着任しました長岡徹郎です。専門は日本哲学や宗教哲学、特に西田幾多郎や西谷啓治の哲学思想を研究対象としています。西田は京都大学で教鞭をとりながら、禅仏教を背景とする新しい哲学を構想しようとしました。私は、西田が切り開いた哲学的可能性が、西谷をはじめとするその後の世代においてどう継承・発展していったのかを、様々な角度から研究しています。

西田幾多郎

また、大阪大学では主にＦＤなどの教育支援にも携わっております。最近では「生成 AI 教育ガイド」も作成させていただきました。大学教育には、大学院時代のプレＦＤへの参加をきっかけに携わるようになり、それからは実地で大学教育について学んできました。ＦＤを通じた様々な分野の先生方との相互交流から得た知識や技術を駆使して、授業内容に応じた柔軟な教育支援を目指していきたいです。哲学と教育という他の先生方にはあまり見られない経歴を活かして、大阪大学の教育の発展に貢献できるよう、努力いたします。

研究にまつわるクイズ

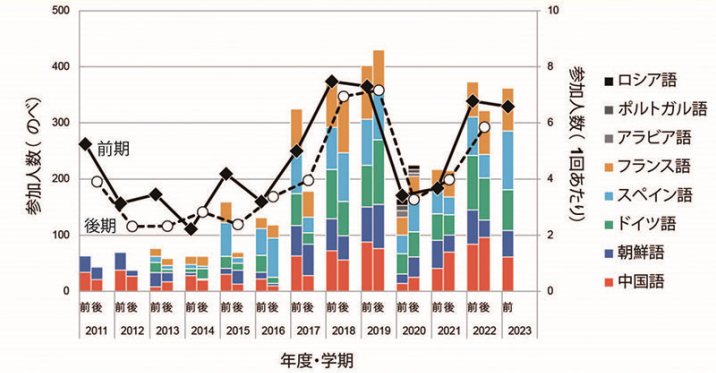
philosophy はなぜ「哲学」と訳されたと思いますか？

クイズの答えはウェブサイトへ

データでみる“多言語カフェ”

全学教育推進機構では、学期中の昼休みに、外国語での会話を楽しむ多言語カフェを開催しています。開始当初は３種類だった言語も、レギュラー６種類、要望に応じて開催したポップアップカフェを加えると９種類まで増加しました。開始からの 12 年間をデータで振り返ります（字数の都合上、学期の名称は前期・後期で統一します）。

参加人数の推移（英語以外、折れ線グラフ：のべ、棒グラフ：1 回あたり）



まず、参加者の推移をご紹介しましょう。英語カフェは、1 回あたりの平均参加人数が前期 20 人前後、後期 13 人前後と当初から安定した人気で、2017 年から 2019 年には後期も順調な伸びを見せました（グラフはウェブに掲載）。一方、英語以外の言語は、開催回数が少なかったこともあり、定着するまでやや時間がかかりました（左図）。2017 年より、開催回数を増やしたほか、記念品がもらえるポイント制の導入効果か、のべ参加人数に加え平均人数も増加しました。2020 年は、COVID-19 の拡大により４月の開催を断念、その後もオンライン開催とした影響で、参加人数が急落しました。ただ、入国できなかった留学生はじめ、コミュニケーションの機会を失った学生に、学生間の交流の場を提供できたことは大きな成果だと考えています。その後、対面での開催を徐々に再開し、現在はほぼすべて対面で開催しています。現在、英語以外の言語の参加人数は 2019 年度と同水準にまで回復、英語についても復調傾向にあります。

つづいては、多言語カフェの進行役を務めるチューターのデータです。下の写真は、多言語カフェの会場 Quartier Multilingue のガラス窓の世界地図に、2021 ～ 2023 年度のチューターの出身地をプロットしたものです（デザインの都合上、不正確な点があることはお許しください）。橙色の円の面積が各国・地域出身のチューターの人数（年ごとにカウントしているので、同じ人が２回含まれることもあります）を表しています。世界中の留学生がチューターとして参加しているため、各地域の風習や学校事情などを聞けるのも、多言語カフェの魅力です。

多言語カフェの詳細は、全学教育推進機構の HP および Quartier Multilingue 周辺の掲示板でお知らせしています。大阪大学構成員の方は、ぜひお気軽にご参加ください。

詳細はウェブサイトへ
https://www.celas.osaka-u.ac.jp/newsletter/online/mlcafe2024/

対面開催！“クラス代表懇談会”

2023 年 12 月 11 日（月）と 12 日（火）の２日にわたり、DAICEL Studio にて１年生クラス代表懇談会を開催しました。2020 年度以降、COVID-19 感染拡大に伴いクラス代表懇談会もオンライン化していましたが、今回は４年ぶりの対面開催となりました。2019 年度以前は１日にまとめての実施でしたが、今回は２日に分け、空間的にも余裕をもっての開催としました。

当日は、クラス代表を 10 個に分けたグループに、当機構の教職員が１～２名ずつ加わり、授業や大学生活、教室、図書館、大学生協などを中心に、様々な意見を交わしました。また、当機構教務係のほか、マルチリンガル教育センター、キャンパスライフ健康支援・相談センター、附属図書館、大学生協の担当者にご参加いただき、語学科目、学生生活や図書館利用、食堂や生協店舗に関して、学生からの意見や質問に対応していただきました。学生からは、履修に関する情報・相談手段の拡充の要望や授業欠席時の対応に関する質問など全学共通教育科目に関する話題の他、自習や音読学習できる環境、図書館の蔵書、大学生協の営業時間拡充の要望など、幅広い意見が寄せられました。これらの意見を今後の改善につなげていきたいと考えています。

アカデミック・ライティング

阪大生のためのアカデミック・ライティング（SDGsに関連する学部学生対象アカデミック・ライティング教育）

学部学生を対象とするセミナー型アカデミック・ライティング教育科目（アドヴァンスト・セミナー「学術的文章の作法」）を開講しています。受講生のグループディスカッションにより相互の学びを深めながらライティングを進めることが特徴です。また、ライティングの主題は SDGs の情報を参照し、各自が社会に向けて提案する内容になるよう、工夫しています。

詳しくは公式サイトをご覧ください。

https://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/support/academic-writing/

高校生のためのアカデミック・ライティング（高校探究学習支援のためのアカデミック・ライティング講習）

高校探究学習の支援となる高大接続活動として、アカデミック・ライティング講習を多数開講しています。今年度は大阪府立大手前高等学校の２年生を対象とし、全学教育推進機構 DAICEL Studio で３回のアカデミック・ライティング講習を実施。大阪大学 SEEDS プログラムの体感コース受講生を対象に、科学分野のライティングに特化した内容の講習を、スチューデント・ライフサイクルサポートセンターと連携して実施。京都府立鳥羽高等学校２年生を対象に、アクティブラーニング型アカデミック・ライティング講習を本機構の教員（堀・坂尻）が主体となって豊中キャンパスにて行いました。

CELAS NEWS

“DAICEL Studio” ネーミングライツ更新記念イベント　2023年７月７日

大阪大学と株式会社ダイセルとの「ネーミングライツに関する協定書」の更新を記念して、大阪大学キャリア開発講座（シリーズ業界研究）「化学業界、化学メーカー～企業で働く技術者とは！？ 大学の研究と何が違うの？～」と題したイベントを開催しました。当日は、進藤機構長の開会挨拶の後、３人の講師による業界等の紹介や、大学と企業との研究の違い等に関する講話、学生を交えた座談会が行われ盛会裏におわりました。

R５（2023）年度「大阪大学全学教育優秀賞」表彰式　2023年12月15日

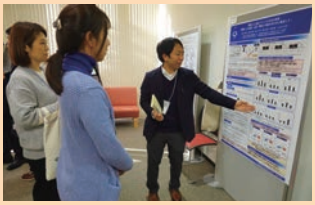
教養教育において優秀な学業成績をあげた学生50名が進藤機構長より表彰されました。

詳細はこちらから ▶▶▶

第８回大阪大学豊中地区研究交流会　2023年12月８日

当機構の小見山高明講師がポスター発表を行いました。

タイトル 「運動による脳リラックス方法の探索
ー 閉眼による脳波（α波）増加との組み合わせに着目してー」



【開催案内】

2024 年３月 26 日 豊中キャンパス DAICEL Studio にて「『学問への扉』高大接続シンポジウム」を開催

詳しい情報は特設サイトへ　https://gakumon.celas.osaka-u.ac.jp/ ▶▶▶

大阪大学高等教育研究

全学教育推進機構では、「大阪大学高等教育研究」を編集・発行しています。高等教育や大阪大学での教育活動に関する論文を募集しています。冊子体による発行のほか、OUKA（大阪大学学術情報庫）にも登録され、電子データの公開も行っています。詳細はウェブサイトをご参照ください。たくさんのご投稿をお待ちしています。

詳細は WEB サイトをご覧ください。

https://www.celas.osaka-u.ac.jp/publications/ouhes/ ▶▶▶

ニュースレターのバックナンバーはこちらから　https://www.celas.osaka-u.ac.jp/publications/newsletter/